



専門家でも賛否両論 不妊治療における遺伝子検査

この2、3年で体外受精における胚の染色体検査PGS-A(着床前スクリーニング)が身近になり、その検査結果を受けて正常な胚だけを選び出し、子宮に移植できる時代になっています。

●胚の染色体検査とは

対外受精して5日から6日目の胚の細胞を数個取り出し、染色体に異常がないかを調べます。通常、1日から1週間程度で結果が出ます。

メリットは、21番目の染色体が3本になるダウン症などの染色体異常を事前に知ることができ、正常な胚だけを選び出すことで、子宮に移植する胚の数を最小限にとどめ、流産も減らすことができます。

●専門家で見方が異なる検査の実施

2017年には染色体検査のメリットに注目が集まっていたのですが、2018年には北米の不妊学会で誤診があることを懸念する専門家の声も上がり、検査の実施には賛否両論があります。

検査に消極的な人々は、特に2～5%の割合で誤診があることを主張します。検査自体は精度が高く間違いが

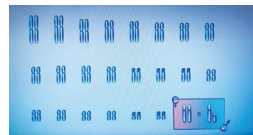
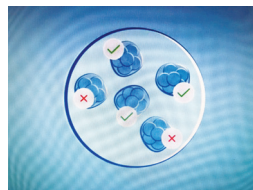
少ないものの、検査のために取り出した数個の胚の細胞だけでは、染色体異常と言い切ることはできず、逆に検査しなかった細胞に染色体異常がある可能性もあります。

数回の検査で全て染色体異常が出た場合、卵子提供による妊娠を選択することもできますが、誤診によるもので、本当に卵子提供が必要だったかという疑問が残ります。

●世界各国でも見方が異なる

染色体検査の認識は世界各国でも異なります。例えば、イタリアでは35歳以上の女性なら保険適応で検査が受けられますが、日本は検査自体が実施されていません。ブラジルや北米は自費であれば受けられます。

妊娠を希望する女性のケースによって、医師と相談しながら染色体検査も選択されています。



フェルチクリン FERTICLIN

Av. Indianópolis, 1960 - Planalto Paulista- São Paulo - SP

Tel: (11) 5581-2045 / 5581-3566

www.ferticlin.com.br / ferticlin@ferticlin.com.br



不妊治療

体外受精 Fertilização In Vitro

卵子凍結保存 Congelamento de Óvulos

人工授精 Inseminação Artificial

精管切除後の治療 Vasectomizados



FERTICLIN
Clínica de Fertilidade

中野英二院長 不妊症専門医

DR RAUL NAKANO CRM 46.514
Especialista em Reprodução Humana

Av. Indianópolis, 1960 - São Paulo - SP

(11) **5581-2045** www.ferticlin.com.br